



請願第10号

2025年4月4日

ゆくのき学園の廃校を進める「第2期学校統合及び建て替え計画(案)」の
再検討を求める請願

町田市教育委員会教育長 様

住 所 [REDACTED]
連絡先 [REDACTED]
氏 名 ゆくのき学園を存続させる会 [REDACTED]

(請願の要旨)

2025年3月に市議会に提出された予算書によると、第2期の学校統合及び建て替え(案)の中のゆくのき学園の項目に、基本計画検討着手年度2032年、想定統合年度には2037年と書いてあります。

これは、2021年6月市議会で採択された「町田市立小中一貫ゆくのき学園の廃校見直しを求める請願」と、その後の話し合いの内容に反する計画であることから、第2期学校統合及び建て替え計画(案)の再検討を求めます。

(請願の理由)

① 町田市唯一の小中一貫校・小規模特認校の総括・評価の未実施

私どもゆくのき学園を存続させる会のメンバーは、本学園が廃校になることを知った2021年3月以降、町田市教育委員会に本学園存続の要望と請願を複数回行いました。その後2021年6月市議会で請願を行った結果、本会議において賛成31人・反対1人の圧倒的多数の賛成を得て採択されました。

ゆくのき学園は、町田市で唯一の小中一貫校・小規模特認校です。上記請願の審議に際し、同年6月の文教社会常任委員会で戸塚議員が次のように質問しました。

「モデルケースとして小中学校の一貫校をやったわけなので、そこの9年間の総括をしないまま、老朽化とコストダウンだけとなっちゃうと、それは地域としては、特に今回請願されている方というのはずっと開校から携わってこられた方が多くいらっしゃるというのも聞いているので、それは頭にくると思うんですよ。」

これに対して、指導室長は、次のように答えました。

「今年度も研究指定を受けている部分がございます、その成果を発表するということを考えておりまして、それをもって総括ということも含めたいと考えております。」

しかし、新たな学校づくり推進課が2024年に小田原市に赴いて発言した内容

では、総括するつもりはないとのことでした。

教育委員会は、市議会で請願が通った時の市議の皆さんのご意見や、意見を出した市民を軽視するのでしょうか。

② 地域住民に対する不誠実な対応

2021年6月市議会において請願が採択された後、同年9月に町田市の見解が送られてきました。それは、次のような内容でした。

「ゆくのき学園の存続については、2040 年度までに相原地区の市立小・中学校の児童・生徒数や、相原地区の道路状況といった環境変化を見通しながら検討いたします。」

この見解について当会メンバーが同年9月13日に総務課へ問い合わせに行きました。対応されたのは、新たな学校づくり推進課の小宮課長と中野さんという職員の方でした。そこで、小宮課長は、次のように話されました。

「2031 年度以前には、ゆくのき学園の統廃合の検討は行ないません。2040 年度までに、あらためて地域の方々に意見を聴いて、対応していきます。」

今年は2025年ですから、まだ統廃合の計画には載せないはずではないですか。地域の方々の意見を聴いて対応すると小宮課長は言われましたが、地域の方々の意見を聴かれたのでしょうか。

私たちが聞いた限りでは、地域でゆくのき学園の存続か廃校かについて教育委員会との話し合いがもたれたことはありません。

町田市教育委員会は、市議会で話し合われたことも採択されたことも無視するつもりでしょうか。

私たち市民は、市議会において民主的な手続きに則り請願を提出し、そして、市議会によってその請願が採択されました。しかしながら、市による対応はその請願を無視し、市民の声と市議会の意思を軽んじています。

このような行為は、市民の権利を侵害し、地方公共団体の本来のあるべき姿を逸脱しています。私たち市民が求めているのは透明性と誠実さ、そして市民の意見を尊重し、正当に実行される自治です。市議会での可決が意味を持たないのであれば、民主主義が形骸化することは避けられません。

私たちは市に対し、可決された請願内容を速やかに実行し、真摯な姿勢で市民の声を反映させることを求めます。

2021年6月市議会において採択された請願項目は、「町田市立小中一貫ゆくのき学園(大戸小学校・武蔵岡中学校)を廃校にしないでください。」です。

ゆくのき学園を存続させることは、地域の声であり、市議会の総意です。

ゆくのき学園を存続させてください。第2期の統合計画(案)には載せないでください。